

看護師のためのエンド・オブ・ライフ・ケアに関する教育について

(文責:看護部 井沢知子)

2007年に当院が都道府県型のがん診療連携拠点病院に指定されたことから、看護部でも院内のがん看護のレベルアップに努めてきました。都道府県型がん診療連携拠点病院の役割には、その施設での治療やケアに精通していることは言うまでもありませんが、地域のがん医療やがん看護の領域でもリーダーシップを発揮していくことが求められています。

そのような背景から、2011年より京都府がん医療戦略推進会議緩和ケア部会と協働しながら、看護師に対するエンド・オブ・ライフ・ケアに関する研修を行っています。今回は、その看護師のための研修(ELNEC-J)について紹介します。

ELNEC-J (End of Life care Nursing Education Consortium-Japan)とは

ELNEC-Jは、End of Life care Nursing Education Consortium-Japanの略で、現在では看護師向けの緩和ケア研修として、がん看護を実践する看護師にはよく周知されている研修です。これは、もともとアメリカのAmerican association of college of nursingとCity of HOPEが共同で開発したエンド・オブ・ライフ・ケアに関する系統的な看護師教育プログラムです。2004年頃日本に導入され、2007年に日本版が開発されて現在に至っています。まず、指導者養成コースである「ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成プログラム」に基づいて研修が始まりました。つまり、緩和ケアに精通している看護師たちが、さらに現場のジェネラリストナースたちにELOケアを教えるためのノウハウを学ぶというものです。現在では997名の看護師が指導者として全国で研修を行っています。そもそもELNECを日本に導入したのは、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻の竹之内沙弥香先生で、さらに2014年1月より京都大学に着任されました緩和ケア・老年看護学分野の田村恵子先生もこのELNEC-Jを推進するリーダーの一人であり、京都大学は緩和ケアに強い看護師育成の聖地だと言えるのではないかと思います。

ELNEC コアカリキュラムは9つのモジュールで構成されています。さらに日本語版では日本が超高齢化社会を迎えるという国の特徴を踏まえ、「高齢者のEOLケア」のモジュールを加え全体で10のモジュール構成になっています。

* アメリカで開発された ELNEC コアカリキュラム:

現在、ELNECはアメリカ本土では、17730名の指導者看護師が存在し、480000人の一般看護師への教育が行われているそうです。ELNECは世界中で広く行われており、現在では78カ国へ普及しています。

Module1	Nursing care at the end of life
Module2	Pain management
Module3	Symptom management
Module4	Ethical issue in palliative care nursing

Module5	Cultural consideration in end of life care
Module6	Communication
Module7	Loss, grief, bereavement
Module8	Achieving quality care the end of life care
Module9	Preparation for and care at the time of death

京都府での ELNEC-J 開催の現状

京都府では、2011 年よりこの研修開催に取り組み始めました。京都府がん医療戦略推進会議緩和ケア部会のもとで、都道府県型がん診療連携拠点病院である当院と京都府立医科大学附属病院、地域型がん診療連携拠点病院の看護師たちが集まり、皆で綿密な打合せを行いながら計画を立案し、毎年 1 回の開催を目標に行ってきました。これまでに 130 名の看護師が受講しました。具体的には、講義は ELNEC-J 指導者が担当し、その他の看護師がファシリテーターとして研修の進行を担っています。ELNEC-J の特徴は、座学だけでなく、受講生とのインタラクティブティーチングを重視するところであり、グループワークやロールプレイングなど受講生にも能動的な参加が求められます。ELNEC-J は毎回モジュール毎に 5 段階評価で、受講生からの研修の評価を得ています。これまでの研修では、全体で平均 4.2 以上の評価が得られており、受講生からも高い評価が得られています。

今後さらに、この研修を継続し多くのナースたちが EOL ケアに自信をもって取り組めるように、ELNEC-J を洗練し継続していきたいと思えます。

プログラム内容

開催日：2011年12月17日(土), 12月18日(日)

場所：京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻杉浦地域医療研究センター
【1日目 12/17】 【2日目 12/18】

時間	スケジュール	形式	担当	内容	時間	スケジュール	形式	担当	内容
08:45-09:00	受付		内藤麻生 千 喜重 直		08:45-09:00	受付		内藤麻生 千 喜重 直	
09:00-09:20	イントロダクション	全体	井沢 雅子	開催趣意(海川 豊生) ・ELNEC-Jの意義プログラムの 目的と目的の期待	09:00-09:20	ご挨拶	全体	井沢 雅子	
09:20-10:10 (50分)	Module1 エンド・オブ・ライフ・ケア における要諦	全体講義	田村 恵子	エンド・オブ・ライフ・ケア の意義	09:20-10:05 (1時間)	Module2 緩和ケアのエンド・オブ・ ライフ・ケア	全体講義	西山みどり	エンド・オブ・ライフ・ケア の意義
10:10-10:20	休憩(10分)				10:05-10:15	休憩(10分)			
10:20-11:20 (1時間)	Module2 痛みマネジメント	全体講義	中村 洋子	エンド・オブ・ライフ・ケア の意義	10:15-11:15 (1時間)	Module5 コミュニケーション	全体講義	大内雄也 千	エンド・オブ・ライフ・ケア の意義
11:20-11:30	休憩(10分)				11:15-11:25	休憩(10分)			
11:30-12:30 (1時間)	Module2 痛みマネジメント	全体講義	藤本聖和 千	エンド・オブ・ライフ・ケア の意義	11:25-12:10 (45分)	ロールプレイ②	グループ ワーク	大内雄也 千 田中 洋 子 中 洋 子 中 洋 子	ロールプレイを通して、 Module6の内容を学ぶ
12:30-12:30	昼食(1時間)				12:10-12:10	休憩(1時間)			
12:30-14:15 (45分)	事例検討①	グループ ワーク	田中 洋 子 中 洋 子 中 洋 子	事例を用いたグループ 討論を通して、痛みメン ジメントについての理解を 深める	12:10-14:10 (1時間)	Module7 喪失・悲嘆・死別	全体講義	佐々原美 和	エンド・オブ・ライフ・ケア の意義
14:15-14:25	休憩:coffee break (10分)				14:10-14:20	休憩:coffee break (10分)			
14:25-15:25 (1時間)	Module4 エンド・オブ・ライフ・ケア における倫理的問 題	全体講義	佐々 幸子	エンド・オブ・ライフ・ケア の意義	14:20-15:20 (1時間)	Module9 緩和ケア	全体講義	佐々原美 和	エンド・オブ・ライフ・ケア の意義
15:25-15:45 (20分)	Module5 エンド・オブ・ライフ・ケア における文化への 配慮	全体講義	大内雄也 千	エンド・オブ・ライフ・ケア の意義	15:20-15:40 (10分)	Module 10 質の高いエンド・オブ・ ライフ・ケアの達成	全体講義	井沢 雅子	エンド・オブ・ライフ・ケア の意義
15:45-16:25 (50分)	Module5 エンド・オブ・ライフ・ケア における文化への 配慮	全体講義	大内雄也 千	エンド・オブ・ライフ・ケア の意義	15:40-16:20 (40分)	Module 10 質の高いエンド・オブ・ ライフ・ケアの達成	全体講義	井沢 雅子	エンド・オブ・ライフ・ケア の意義
16:25-16:50 (15分)	まとめと評価	全体	井沢 雅子	質問時間	16:20-16:40 (20分)	まとめと評価	全体	井沢 雅子	質問時間アンケート回 答
					16:40	解散			